

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心と智恵と技をとぐ上峰っ子の育成	① 豊かな心の育成 ② 確かな学力の定着 ③ 体験活動を通じた多様な力の育成

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○開かれた学校	* 開かれた学校づくりの推進	・参観日の保護者出席率を昨年度より増やす。 ・地域の方々との連携や協力を促す。	保護者や地域の方々に、学校だよりや各学年・学級だより等で来校を促すと同時に、携帯電話の「マチコミ」による情報発信を行う。 地域の教材化を図ると共に、各教科で地域の人材を活用する。	B	授業参観日や各種の学校行事への保護者の出席率は高く、祖父母の参観者もあつた。しかし、時期によっては出席率が低かつた。 地域の人材活用については、定着している。	保護者の学校行事への出席率をさらに良くするために、日程をホームページや文書で早目に連絡するとともに、時期や内容を工夫する必要がある。また、地域の人材活用については、目的を踏まえて、常に見直しを図っていく。学校だよりやHPでも紹介する。
	●いじめの問題への対応	* 人権教育の充実	・人のいやがることを言ったりしない児童を90%以上にする。 ・友達には、「さん」や「君」をつける児童を90%以上にする。	生活アンケートを月に1回実施し、実態を把握して指導する。 保護者へのアンケートを年に2回実施し、実態把握をして改善に努める。	A	心のアンケートの実施を学期に2回実施し、いじめを許さない、見逃さないという体制で臨んだ結果、問題に早めに対応することができた。	いじめ防止対策推進法について、全職員に周知徹底を図り、今後もアンケートなどを実施・活用してどんな小さないじめも見逃さない、許さないという強い態度で臨む。
	●心の教育	* 人権・同和教育の充実 * 特別活動等の充実 * 道徳授業の充実	・人権・同和教育の推進を図り、どの子どもも楽しく過ごせる学級・学校づくりを行う。 ・計画的な集会活動や毎月の委員会活動を実施する。 ・道徳授業の工夫改善を図る。また、年1回以上ふれあい道徳を全学級で行う。	参観日にふれあい道徳授業を行い、保護者・地域の方に本校道徳教育の理解を求める。 人権教育をもとに子どもたちの豊かな人間関係を築き、どの子どもにとっても楽しい学級・学校づくりを行う。	A	心を育てる取り組みを、学校全体やそれぞれの学年で、発達段階に応じて、人権教室や道徳の時間などを活用して行った。さらに徹底させるためには、全職員の共通理解と家庭との連携が必要である。	PTAに働きかけ、これまで以上に保護者に協力していただき、家庭での心の教育も推進し、児童の道徳心の伸長を図りたい。

② 確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	* 学び方のきまりの徹底 * 確かな学力の育成 * 基礎学力の徹底指導 * 校内研究の充実・推進 * 読書指導の充実	・学習のきまりの達成率は80%をめざす。 ・CRTテストや学習状況調査の結果を分析し、指導に活用する。 ・年間の読書量について一人平均80冊以上をめざし、学年で目標を決めて奨励する。	学習のきまりや学習の基礎・基本を日々の授業で徹底する。 各種テストで全国平均を上回る。 研究授業だけでなく、日常の授業改善を図る。 学年に応じた、読書の量と質が向上するように推進する。	B	活用力に課題があり、TT指導法改善の取り組みを活かして授業改善を行った。しかし、全国学力学習状況調査、および県学習状況調査の結果が平均より下回るものもあり、さらに指導法の改善や工夫が必要である。	活用力に課題が残るので、TT指導法改善の取り組みを活かして授業改善を行う。校内研究を充実させ、職員の授業力の向上を図り、日常の授業の改善に取り組む。 図書館の環境をいっそう整備し、読書の推進に努める。
	○教職員の資質向上	* 校内研究(算数科)の充実 * 職員研修の充実 * 参画意識の育成	・研究授業の充実を図る。(研究会:6回) ・職員研修を年5回以上開催する。 ・部会の充実を図る。	毎回講師を招聘し、研究会の充実を図る。 職員の経験や特技を生かした研修を行い、職員相互の情報交換の機会を増やす。	A	全校授業研究会や学年部会を充実させ、お互いの授業を参観する機会を持つことによって研修が深まった。	日々の教材研究の中で、基礎基本を重視した授業の構築や、基本的な学習習慣の見直し、生徒指導の充実を図り教師力をアップする。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	* 機器を活用した授業を全学級で実施	・パソコン室や電子黒板を活用した授業や機器を活用した授業を全学級で実施する。	電子黒板の活用を全学年で行う。 校内で職員研修を実施し、職員のスキルアップを図る。	A	電子黒板やデジタル教科書、書画カメラなどを授業で効果的に活用することができた。また、職員のICT利活用の技能も高まった。	電子黒板やデジタル教科書、書画カメラなどを活用した授業に取り組み、成果を上げることができた。次年度も、さらに利活用の技能も高まった。 ICT推進員と連携を密にして、職員のICT利活用のスキルアップを図る。
○生徒指導・教育相談の充実	* 生活指導・教育相談の充実	・問題行動の発生を未然に防止する。 ・不登校や不登校傾向の児童数を減少させる。	日常の観察指導を徹底すると共に、いじめの実態調査や子どもとの相談活動、家庭との連携・協力で発生の防止に努める。 スクールカウンセラーや関係機関と連携・協力する。	A	問題行動に対しては、SC、SSW、関係機関と連携し、全職員で情報の共有化を図り、解決することができた。	組織的な対応ができたので、今後も職員迅速な報告・連絡・相談体制を維持継続したい。また、これまで以上に関係機関やPTAと連携し、問題の未然防止を図る。	

③ 体験活動を通じた多様な力の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
体験活動	○米作り、大豆作りの体験活動の充実	* 地域の方とのふれあいを通じて、上峰町のよさを知り将来の上峰を担う児童を育成する。	農業体験(米作り、大豆作り)を充実させ、地域人材を活用した授業等を行う。 ふるさとに根ざした上峰っ子として、自己の生き方を考え、上峰町に貢献する児童を育成する。	米づくり・大豆づくりの体験学習を通じて人々の工夫や苦勞を知り、地元の産業のよさを理解させる。	A	体験活動を通して、児童が上峰町のよさについて理解を深め、学習に関わってくださった方々に対して感謝の気持ちを持つことができた。	地域の方や関係機関との連携体制をさらに強化するとともに、活動の目的や方法等について、学校行事や児童の実態に応じて常に検証して見直しを行う。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
健康教育	●健康・体づくり	* 歯と口の健康に関して学年に応じた指導を行い、児童・保護者の歯と口の健康づくりに対する意識を高める。	毎日、朝・昼・夜に歯磨きをする習慣を身に付けさせる。 総合的な学習の時間や食育、教科とも関連した指導の計画を見直し実践する。	給食後の歯みがきの取り組みや、歯科衛生士を招いてのブラッシング指導をとおして、歯と口の健康づくりを推進する。また、保健便りなどで、児童や保護者にさらに歯の健康に気を付けるように意識付けをさせる。	A	歯磨き習慣の確立、保護者や歯科衛生士との連携が充分達成できたので、児童のよい生活習慣が確立できた。	生涯を通して児童が自分自身の歯・口の健康作りに関心を高めるように、今後ともぜひ継続して取り組んでいきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

今年度の目標については、おおむね達成することができた。「校内研究」については、昨年度に引き続き「算数科」の研究に取り組んだ。活用力向上指定事業の指定2年目で、全職員が研究授業を行い、年に2回校外にも授業を公開するなど、授業力向上に対する機運が学校全体として高まった。
 今後は、「学力向上」「特別支援教育」に力を注ぎ、児童がいいきと学校生活を送り、積極的に学習に臨むことができるように、学習指導と生徒指導両面の指導力向上に取り組んでいきたい。
 また、地域との連携についても検証を行い、「地域になくてはならない学校」、「安心・安全な学校」を目指して、全職員で取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目